

若ノ嶋 電撃引退

皆に愛された平成最後の名横綱

紙相撲新聞

第166回本場所
号外

編集・発行
日本紙相撲協会

幕内最高優勝5回、幕内通算286勝、

横綱在位30場所、名誉を選んだ名横綱の引き際

終戦から80年の翌日の8月16日、16回本場所5回目の優勝を飾ったばかりの横綱若ノ嶋が電撃的に引退を表明した。

千秋楽を終えて数日後に不調を訴えられて救急搬送された。公には公表されていなかったが以前から心疾患を煩っていて、これ以上紙相撲を続けると命に係わる大問題になると主治医から申し渡された。

若ノ嶋本人は「土俵の上で死ねれば本望！」と現役続行を訴えたと言うが、錦風親方や後援会からの猛烈な説得があつて涙ながらに引退を決断したとのこと。「次の場所は連覇と6度目の優勝をと決意を新たにしていただけに誠に残念無念！」とその胸中を語った。

小学生の時に故郷の三重県松阪市で相撲を始め、その後、伝説の「青木道場」に入門し、王（元大関照の王）と道場で切磋琢磨して非凡な素質を開花させていった。

その「青木道場」での実力が評価され、115回本場所に幕下付出で照の王とともに初土俵を踏んだ。初日から4連勝して全勝優勝かと思われたが、千秋楽に初霜部屋に敗れ惜しくも優勝を逸した。

その様子はNHK「熱中時間」で放映され、一躍注目される存在となった。

照の王は「青木道場」での好敵手で、紙相撲界で東西の幕下付出で初土俵を踏み、土俵を離れればお互いを「ワンちゃん、シマちゃん」と呼び合う親友で



↓第163回場所初日の土俵入り。このころ既に病魔に蝕まれていたのか。

あったが、土俵上では互いに負けられない終生のライバルとして抜きつ抜かれつの紙相撲人生を送った。

若ノ嶋は入門時、稽古場では関取にも勝つ相撲をみせ「稀に見る逸材で末は大関横綱か」と師匠の錦風親方（元小結富士光）も大いに期待した。

幕下を3場所で通過して118回本場所に新十両に昇進。「関取になってここからが勝負！大関、横綱を！」と錦風親方の期待は大きかったが、相手に差されたり、差せば投げられたりと「期待が大きすぎたかな。頑張っても三役止まりか。」と錦風親方も落胆したという。

ところが、元来の稽古好きで少しずつ弱点を克服し、十両を3場所で通過して新入幕を果たすと8勝3敗で敢闘賞を受賞、負け越すこともなく123回本場所には新小結に昇進するも、さすがに上位の壁は厚く5勝6敗と初の負け越しを経験。

翌場所、三役から陥落したが7勝をあげて新関脇に昇進し、錦風部屋として初めての関



第165本場所千秋楽、春ノ翔を下して5度目の優勝を果たした若ノ嶋。この数日後、引退表明をするとは、本人すら思ってもいないことだった。